



発行日 2011年10月20日

発行 一般社団法人日本リスク研究学会

会長 長坂 俊成

事務局 〒166-8532 東京都杉並区和田 3-30-22 大学生協学会支援センター内  
日本リスク研究学会事務局 発行責任者・情報管理委員会 瀬尾佳美  
TEL. 03-5307-1175 FAX. 03-5307-1196  
mail: sra-japan@univcoop.or.jp URL: <http://www.sra-japan.jp/cms/>

日本リスク研究学会は、日本におけるリスク研究と研究者相互の交流を図ることを目的として、1988年に米国に本部をもつ国際的なリスクについての学術団体であるSRA(The Society for Risk Analysis)のJapan sectionとして発足しました。現在では、米国、欧州、東南アジアの諸学会と緊密な連携をとりつつ独自の活動を展開しています。

## 1. リスク放談

この「リスク放談」のコーナーでは、著名な先生方のリスク研究に関する想いやご意見を紹介いたします。

### 「予想外」の原子力発電所の事故を通してリスクコミュニケーションの難しさを実感

大分県立看護科学大学学 草間朋子

本年3月11日の東北大震災に伴って発生した福島第一原子力発電所の事故は、日本ばかりではなく、原子力先進国と言われる国々の原子力関係者のおそらく誰もが想像もしなかった大事故（国際事故評価尺度で最悪のレベル7）となってしまいました。

今回の原子力事故に伴う放射線被ばくによる健康影響・リスクを、被災者のみなさまに正しく理解していただき、冷静な行動をとっていただくことが、私ども放射線防護・安全に関係してきた者の責務であると考え、できるだけ努力をさせていただいておりますが、被災者をはじめ国民のみなさまの放射線被ばく・放射線の健康影響に対する不安・恐怖を払拭することの難しさに戸惑っております。

とにかく、放射線の健康影響は、被ばく線量（シーベルト）あるいは放射性物質の量（ベクレル）を理解していただき、それに関連したリスクを受け入れていただかなければいけないのですが、事故直後の行政等の対応のまずさやマスコミの過激な報道等を通して、一部の被災者、国民のみなさまは、被ばく線量はゼロ（あるいは検出限界以下）に、放射性物質の量もゼロ（あるいは検出限界以下）、すなわちリスクをゼロにしなければ納得していただけないところまできてしまいました。

放射線影響に関しては、人の疫学調査（その多くはコホート調査）の情報が豊富であることが特徴とされ、多くの疫学調査の結果をもとに、放射線防護の基本的な考え方が構築され、防護基準の設定が行われてきました。放射線防護では、被ばく線量と健康影響の発生率との間には、しきい線量が存在しない直線関係（LNT）を仮定し、リスクベースでさまざまな防護基準が設定され、防護の最適化が図られてきました。

放射線に関する基礎研究の結果から、ここ10数年来、LNT仮説に異論を唱える研究者も数多く出てくる中で、国際放射線防護委員会（ICRP）および、ICRPに科学的エビデンスを提供してきた原子放射線影響に関する国連科学委員会（UNSCEAR）は、人の疫学調査の結果からは、不確定性が大きく放射線被ばくによる健康影響の有意な増加を認めることができない100ミリシーベルト以下の低線領域の線量反応関係に関して、LNT仮説を堅持してきました。わが国でも、この仮説に基づくリスクベースの考え方がようやく定着してきたように思っていた時期に、今回の事故は起こってしまいました。7ヶ月を経過した現在、メルtdownを起こした原子炉は、「冷温停止」の状態になり、大量の放射性物質の放出の可能性はなくなり、土壌の汚染が始まり、避難などの緊急時に採られた防災措置が解除される段階になり、放射線影響に対する不

---

安を持つ人々に、リスクをベースにした考え方を理解していただかなければならないのですが、リスクを理解し、一定のリスクを受容してもらうことができないのが現状です。

一般的に、人々のリスクの理解について影響を与える要因として、①馴染みがあるかどうか、②不確かさの程度、③自発的な行為であるか、④症状の出現する時期とくに遅れて出現するか、⑤子どもへの影響があるかどうか、⑥遺伝的影響があるかどうか、⑦リスク管理に対する信頼性の程度、⑧メディアの取り上げ方、⑨自然のものか人為的なものなどがあげられますが、放射線の健康リスクに関しては、これらの全ての項目が該当します。事故後、7ヶ月以上経った現在も、子どもを中心に、福島県からの自主避難を希望する人々が後を絶たない現状や、内部被ばくの検査に多くの人々が殺到し、その結果(数値)に一喜一憂する人々を目にしながら、カタストロフィー的な事象に伴う放射線の健康リスクを国民のみなさまに分かっていただくことの難しさと、理解していただくための手段が見つからない現状をもどかしく思っています。

昭和40年に、私が大学を卒業した当時は、大気汚染など「公害」という言葉が、環境問題のキーワードでした。全国で初めての公開講座が東大で開催され、そのテーマが「公害問題を考える」でした。当時、中国、フランスが大気圏の核実験を継続して実施しており、大気圏の核実験が行われる度に、新聞(その当時のマスメディアは新聞が主流でした)に、「雨にぬれると髪の毛が抜ける」などと報道されており、環境問題に興味があったこともあり、放射線の安全問題を取り扱う領域の研究・教育に携わることを決心し、放射線防護の領域に足を踏み入れました。大学卒業直後で、放射線に対しての知識や放射線の測定技術などのスキルを全く持ち合わせてない時期でしたが、中国で核実験が行われたと報道された数日後に、大学の研究室のある建物の屋上をGMサーベーターでサーベーターすると、ホットスポットが見つかり、「これが核実験による核分裂生成物なのだ」と自から実測できたことに感激したことを思い出します。

私が所属した東大医学部放射線健康管理学教室では、科学研究費で購入したホールボディカウンタが入局直後の昭和40年4月から運転を開始し、東京都や秋田県(中国の核実験の影響が東京都の児童に比べて大きいとの仮説の下で測定対象として選択した)の学童や、一般の方々、数千人の体内のセシウム-137を測定させていただきました。30分の測定で、子どもを含む全ての人々からセシウム-137と天然放射性物質の一つであるカリウム-40のガンマ線のピークがエネルギー分析装置の画面にはっきり出てきたことを思い出します。これは、アメリカ、ソ連、イギリス等が1963年の部分核実験停止条約に調印するまでの間に大気圏でおこなった核実験により世界中の人々の体内に蓄積された放射性セシウムでした。

先日、ある県の講演会で、私が放射線安全・防護の領域に足を踏み入れたきっかけをお話ししたところ、参加者のお一人から「その当時のことをもっと説明に使ったらどうですか。40年以上経った今、自分達にも、子ども達にも全く健康影響が出ていないのですから」とのコメントをいただき、次の機会には利用してみようと思っているところです。

人々の五感で直接、その存在を認識することのできない、また、今まで馴染みのなかった放射線、放射性物質による健康リスクを理解していただくためには、時間と手間を掛けて、自然放射線も含めて、測定し、自ら「見える化」を図っていただくことが最も手っ取り早いのかもしれないと思う今日この頃です。

日本人は「リスクを理解する文化を持っていない」と断言する人々もおりますが、日本国民は、賢いと信じている私はそうは思いたくありません。情報の発信の時期、仕方がまずいのではないのでしょうか。

---

## 2. おしらせ

---

### 2.1 2011 年度日本リスク研究学会 第 24 回年次大会のお知らせ

大会実行委員長 前田恭伸

本年度の年次大会を、下記の要領での開催いたします。多くの方々の参加をお待ちしております。

1. 日時：2011 年 11 月 18 日（金）～20 日（日）

11 月 18 日（金）17：00～ 若手会員が企画するワークショップ

11 月 19 日（土）9：00～17：50（予定）

18：00～20：00 懇親会

11 月 20 日（日）9：00～17：00（予定）

2. 場所：静岡大学 浜松キャンパス

〒432-8561 静岡県浜松市中区城北 3-5-1

3. 大会テーマ：リスクと共に生きる

今年は、新燃岳の噴火、東日本大震災、台風 12 号・15 号と、多くの自然災害に見舞われた年でありました。特に東日本大震災においては、地震だけでなく、津波、原子力災害も重なるマルチリスクという性格が、その対処を困難にしています。また、東海地震、東南海地震、南海地震など来るべきリスクに対しても備えなければなりません。

一方で生肉による食中毒のような古くて新しい問題も今年は話題になりました。食品安全については、放射性物質による汚染にどのように対処するのかという、更なる問題も発生しています。

このように様々なリスクが共存する社会でわれわれは生活しています。今回の大会自体、東海地震の想定震源の真上での開催となります。ではそういったリスクをどうつきあっていけばいいのか。そのような問題について、多くの方々の発表、議論、問題提起が行われることを期待しています。

4. 講演区分等

1) 一般講演

2) ポスターセッション

今年は、一般の会員からのポスターに加え、後述する国際シンポジウムに合わせた、国際ポスターセッションも同時開催します。

3) 企画セッション

テーマ：リスクコミュニケーションの新たな分野への取組みと、さらなる課題について

代表者：吉田佳督（名古屋大学大学院）

4) 学会主催 特別セッション：東日本大震災

---

東日本大震災をテーマとした特別セッションを開催します。

特別セッション（１）：

テーマ：リスク学から見る「想定外」：LPHC リスクのアセスメント・ガバナンス再考

座長：池田三郎（筑波大学名誉教授）

登壇者

木下富雄（国際高等研究所）、

ほか交渉中

特別セッション（２）：

テーマ：東日本大震災の Risk Governance deficit（仮題）

座長：盛岡通（関西大学）

登壇者

長坂俊成（防災科学技術研究所）

関澤純（食品保健科学情報交流協議会）

ほか交渉中

#### 5) 国際シンポジウム

テーマ：Risk analysis from Asia-Pacific perspective

登壇者：

1. Daniela Leonte (SRA Australia)

2. Kueu-Yuh Wu (SRA Taiwan)

3. Dong-Chun Shin (SETAC Korea)

4. To be announced (SRA Japan)

#### 6) 特別講演

今年は、東日本大震災、台風12号など、未曾有の自然災害をいくつも経験しました。これを踏まえ、防災とリスクの接点について、特別講演を企画中です。

#### 7) 若手会員が企画するワークショップ

企画名：若手による次の時代のリスク評価のあり方を考えるワークショップ

企画責任者：保高徹生（(独)産業技術総合研究所）

#### 5. 臨時総会

11月19日（土）13:30～に臨時総会が予定されています。詳細は追ってご連絡いたします。

#### 6. 参加費：

事前申し込み（11月4日まで）：正会員・賛助会員および購読会員：6,000 円、

学生会員および学生：4,000 円、非会員：8,000 円。

大会ホームページから事前申し込みできます。

当日申し込み：正会員・賛助会員および購読会員：7,000 円、

学生会員および学生：5,000 円、非会員：9,000 円。

・消費税込み、講演論文集代を含む

（事前のお支払いは口座振込にてお願いいたします）

7. 大会に関するお問い合わせ、連絡先

大会ホームページ：<http://www.sra-japan.jp/SRAJ2011HP/>

2011年度第24回日本リスク研究学会年次大会 実行委員会事務局

静岡大学工学部システム工学科 前田恭伸研究室内

〒432-8561 静岡県浜松市中区城北3-5-1

電話：053-478-1202

E-mail：sraj2011@sra-japan.jp

<大会参加登録費：振込先>

三井住友銀行

高槻支店(店番号：152)

普通 2796275

口座名義 日本リスク研究学会 2011年度大会

会計 元吉忠寛

(ニホンリスクケンキュウガッカイ ニセンジュウイチネンド タイカイ カイケイ モトヨシタダヒロ)

---

## 2.2 日本リスク研究学会 東日本大震災特別委員会立ち上げ

東日本大震災特別委員会事務局 瀬尾佳美

日本リスク研究学会では、3.11東日本大震災を受け、学会として継続的に情報発信を行うため、東日本耐震際特別委員会を立ち上げました。会員の皆様方のご参加、ご協力をお寄せくださいますようお願いいたします。

### ■目的

2011年3月11日に発生した東北地方太平洋沖地震は、我が国に未曾有の被害をもたらした。津波による2万人近い犠牲者、地域産業やインフラの崩壊に加え、今回は世界でもまれにみる規模の原子力災害が発生し、これからの復興の在り方、またエネルギー政策の在り方は、世界からも注視される事態となっている。

復興にあたって求められるのは、こうした災害が二度と繰り返されないような地域の構築であろう。しかしながら、リスクには常にトレードオフがあり、また完全に安全な、すなわちゼロリスク神話なるものはあり得ない。このような「リスク」の性格を冷静に理解した上で復興を考えることが、実はもっともリスクを小さくする道であることは、我々会員の信ずるところであるが、こうした考え方は、現状の日本で広く受け入れられているものではない。そこで、この震災および復興に関して、学会として積極的に情報を発信することが、本委員会設立の第一の目的である。

学術分野についていうと、本会の特徴は国際的、学際的であることである。学際組織の面白さは、

---

以前、小林会員が指摘されていたように、異なる分野の専門家の中で communication, coordination, collaboration ができることにある。とりわけ、3 つ目の collaboration は重要だが、これまで本会のなかでなかなか実現することがなかった。この震災対応で collaboration を行い、会のますますの充実を目指すことがもう一つの目的である。

今回の震災にあたっては、会員相互の情報共有なども重要だと考えられる。多くの会員が被災地入りしているが、その情報やそこから得られた知見を随時共有することは、会員の利益になることに加え、被災地の負担軽減にもつながると考えられる。

#### ■ 具体的な活動

- Web サイトや ML を通じた震災情報の共有
- 勉強会の開催
- 出版/Web サイトでの情報発信
- 国際学会 (SRA World congress で、会としてセッションを組織)
- デルファイ分析 等

#### ■ 組織 (暫定)

委員長：盛岡通 (大阪大学)

委員 (順不同)：池田三郎 (筑波大学名誉教授)、関澤純 (NPO 法人食科協理事長)、前田恭伸 (静岡大学)

事務局：瀬尾佳美 (青山学院大学)

来る 11 月の年次大会では、19 日に委員会提案のセッションが行われる予定です。ぜひご参加ください。

☆ 関連して情報管理委員会では、調査・ボランティア等で被災地入りした会員から、ニュースレターへの登校をお願いしています。ぜひ原稿をお寄せくださいますようお願いいたします。

---

## 2.3 World Congress のお知らせ

### 渉外委員会

来年 6 月 18-20、シドニーにおいて、World congress が開催されます。

↓

[http://www.sra.org/docs/BES\\_flier\\_V2.pdf](http://www.sra.org/docs/BES_flier_V2.pdf)

一人でも多くの会員が日本から参加されることを期待しています。日本リスク研究学会としては、東日本大震災に関連して、LPHC リスクに関する一連のセッションを主催する予定です。詳細は未定ですが、内容が決まり次第、ML などを通じて、会員の皆様にお知らせいたします。

## 3. 委員会報告

---

### 3.1 リスクマネージャ認定委員会からの報告

関澤 純

学会の社団法人化に関係した委員会内規の整備、また学会事務局の移転などの理由で遅れていた、大阪大学の環境リスクマネージャ養成プログラムを修了された方と、書類審査によりリスクマネージャとしての資格を認められた方の登録作業をこのたび、学会事務局に事務委託することができ、現在該当者にご案内中である。リスクマネージャ登録者からいただいた登録費を運用して、学会の年会への出席と研究発表をはじめとする、学会内外での研修機会の案内と研修講座開催の検討を進めている。今後その都度、ニュースレターでご案内する予定である

---

### 3.2 表彰委員会報告

坪川博彰

平成23年度日本リスク研究学会の表彰委員会は、下記委員により運営を行っております。

片谷教孝（桜美林大学）

岡田大志（関西学院大学）

村山武彦（早稲田大学）

吉田喜久雄（独立行政法人 産業技術総合研究所）

内山巖雄（元京都大学）

坪川博彰\*（独立行政法人 防災科学技術研究所）

\*委員長

学会賞および奨励賞の推薦公募

日本リスク研究学会賞は、学会に5年以上継続して在籍し、学会活動および研究活動に顕著な業績を上げた会員が受賞することとなっています。平成23年度は9月8日に学会ホームページに案内を掲載いたしました。

[http://www.sra-japan.jp/cms/uploads/Award\\_nomination\\_form2011.doc](http://www.sra-japan.jp/cms/uploads/Award_nomination_form2011.doc)

推薦の締め切りは10月18日といたしましたので、会員からの積極的なご推薦を要請します。

大会発表論文賞の審議予定

平成23年度大会発表論文賞は、40歳未満の若手研究者を対象として、9月27日締切りの学会発表登録

---

---

および10月21日の予稿提出をもって審議対象となります。

<http://www.sra-japan.jp/SRAJ2011HP/bosyu.pdf>

本年度も昨年度と同様な手続きにより審議を進める予定となっておりますので、会員各位の積極的な参加を期待しております。

---

### 3.3 海外渉外委員会報

前田恭伸

World Congress on Risk 2012 について

以下は瀬尾委員と前田委員との間で出た提案であり、海外渉外委員会としての総意ではありません。こういう意見もあったという事をお示しします。

セッションの提案

LPHC 自然災害研究 (仮題)

今年わが国は、東日本大震災や、台風12号、15号など確率は低いが甚大な被害をもたらす(LPHC)自然災害に多く見まわれた。同様の事は他の国々でも起こっており、例えばアメリカではニューヨークを直撃したハリケーンアイリーンやバージニアでのM5.8の地震などを今年経験している。そのような経験を踏まえ、LPHC 自然災害のリスクガバナンスについてのいくつかのセッション(ミニシンポジウム)を他国の研究者とともに企画する。

基調講演：鳩山由紀夫元首相に依頼？

また、オーストラリアの Daniela Leonte 先生からは下記のようなメールを受け取りました。

件名 : Proposed meeting to discuss Asian session in Sydney [SEC=UNCLASSIFIED]

(Wed, 28 Sep 2011 09:55:13 +1000)

送信者: Daniela.Leonte@health.gov.au

宛先 : tymaeda1@ipc.shizuoka.ac.jp

Cc : dshin5@yumc.yonsei.ac.kr

kuenyuhwu@ntu.edu.tw

-----  
Dear Yasunobu,

I hope this message finds you well.

I would like to thank you for organising the international symposium during the upcoming Annual Meeting of SRA-Japan at Shizuoka University.

I look forward to an interesting and stimulating discussion, in a collegial and culturally diverse international atmosphere.

---

---

I also very much look forward to seeing your beautiful country again.

Thank you also for extending the deadline for abstract submission. I am sure we are all grateful for having an extra weekend to finalise our submissions. I would like to ask your opinion on the usefulness and opportunity, while in Shizuoka, to have a separate meeting to discuss in greater detail the proposed involvement of SRA regions in Asia, in next year's Congress in Sydney. Please let me know if such a meeting would be useful, and when do you best think it might be organised.

Also, if you think it might be useful for your members if I provide and outline of the Congress, its theme and proposed program, and perhaps announce the involvement of SRA-Japan and of other SRA regions in Asia in the event, do not hesitate to let me know. I would be more than happy to do so. Thank you again and best wishes,

Daniela

---

### 3. 事務局便り

---

#### 1. 一般社団法人日本リスク研究学会第24回年次大会

開催日 2011年11月18日（金）～20日（日）

場所 静岡大学浜松キャンパス

実行委員長：前田恭伸 静岡大学工学部システム工学科准教授

なお、詳細は未定です。決まり次第、ホームページ、メーリングリスト等でお知らせいたします。

#### 2. 2012年度以降の年会費額のお知らせ（JRR購読者のみ変更）

英文誌 Journal of Risk Research (JRR)の発行回数が年間4回(1～8号)から5回に変更されることに伴い、JRR購読料を以下のように改定いたします（総会にて承認されました）

年会費とJRR購読料を区分します。（年会費はJRR購読の有無に関わらず同額です）

JRRの購読料については、送料を見込んだ実費負担を原則とし、賛助会員を除いて、現行のJRR購読料相当額から号数の増加にほぼ比例させて、次のように改定します。

現行 正会員：6,000円、学生会員：5,000円、賛助会員：0円、購読会員：7,000円

変更案 正会員：7,600円、学生会員：6,400円、賛助会員：0円、購読会員：8,700円

【2012年度以降の会費・JRR購読料】

	入会金	年会費	JRR購読料	JRR購読者合計額
正会員	¥3,000	¥8,000	¥7,600	¥15,600

---

学生会員	無料	¥4,000	¥6,400	¥10,400
賛助会員	¥10,000	¥50,000	無料	¥50,000
名誉会員	無料	無料	無料	無料
購読会員	¥3,000	¥12,000	¥8,700	¥20,700*

「入会金」は入会初年度のみのお振り込みです

### 3. 2011年度年会費お振り込みのお願い

2011年度年会費を含む過年度会費の納付がお済みでない会員は、早急に振り込みをお願い申し上げます。会費は、日本リスク研究学会誌のみ購読会員（一誌購読）と、日本リスク研究学会誌・Journal of Risk Research 購読会員（二誌購読）の2種類になります。

【2010, 2011年度の会費】

	入会金	年会費(日本リスク研究学会誌と JRR 購読)	年会費(日本リスク研究学会誌のみ購読)
正会員	¥3,000	¥14,000**	¥8,000**
学生会員	無料	¥9,000	¥4,000
賛助会員	¥10,000	¥50,000	¥50,000
名誉会員	無料	無料	無料
購読会員	¥3,000	¥19,000*	¥12,000*

JRR : Journal of Risk Research

「入会金」は入会初年度のみのお振り込みです

【2009年度以前の会費】

	入会金	年会費(日本リスク研究学会誌と JRR 購読)	年会費(日本リスク研究学会誌のみ購読)
正会員	¥3,000	¥12,000	¥6,000
学生会員	無料	¥9,000	¥4,000
賛助会員	¥10,000	¥50,000	¥50,000
名誉会員	無料	無料	無料
購読会員	¥3,000	¥13,000	¥6,000

JRR : Journal of Risk Research

「入会金」は入会初年度のみのお振り込みです

【郵便振替口座】一般社団法人化にともない、口座番号が変わりました。

口座番号：00120-0-330322

加入者名：一般社団法人 日本リスク研究学会

\*\*\*他金融機関からの振込口座番号\*\*\*

〇一九（ゼロイチキユウ）店（019）当座0330322

◇学会誌送付の際には会員種別に応じた会費金額を記載した払込用紙を同封し、ビニール封筒で発送しています。年会費納入済みの会員へは茶封筒で発送しています。

◇お送りした郵便振替用紙を使用してください。郵便振替に限り振込手数料を学会が負担しています。経費節減のため、会費のお振り込みには、できる限り窓口ではなく、ATM（現金自動預け入れ払い

---

機)をお使い下さいますようご協力をお願い申し上げます。

#### 4. 学生会員の皆様へ

学生会員の方には学生証のコピーを毎年4月1日以降(下期ご入学の方は4月1日現在および10月1日の二回)提出していただいております。

郵送(もしくはメール貼付)がまだの方は、早急に学会事務局係宛にお送り下さい。

#### 5. 変更届

ご連絡先(所属先・ご住所・e-mail等)に変更が発生した場合は、事務局係(e-mail:sra-japan@univcoop.or.jp, Fax:03-5307-1196)まで早急にお知らせ下さい。

#### 6. メールアドレスをご登録下さい

学会からの定期的な情報・ニュースレターの発刊などの速報・重要なお知らせは、全て会員各位にE-mailでお届けいたします。これらの情報は、原則として毎週金曜日に学会事務局からのメールで、現在皆様にお届け頂いているE-mailアドレスに配信をしております。学会事務局からのメール配信が届かない・届かなくなった場合、あるいはメールアドレスの変更が生じた場合などには最新の配信希望アドレスを学会事務局までお知らせ下さい。

#### 7. 事務局連絡先

〒166-8532 東京都杉並区和田 3-30-22

大学生協学会支援センター内

TEL:03-5307-1175 FAX:03-5307-1196

e-mail:sra-japan@univcoop.or.jp

web-site: <http://www.sra-japan.jp/cms/>

---

## 4. 編集後記

今号、リスク放談に始めて女性の先生から原稿を頂くことができました。それにしてもなかなか進まない男女共同参画であります。

青山学院大学 瀬尾佳美

---